

例年になくじめじめと雨が長く、肌寒い夏が続いており、元気な者でも体調を崩しそうです。会員のみなさま方、お子さま方はお変わりございませんでしょうか。不安定な気候はしばらく続きそうです。自分はもちろん家族の健康には十分注意したいですね。



第7回総会開催される！

去る6月15日医王病院の会議室において本年度の総会が開催されました。当日は正会員31名、賛助会員1名の参加、提出された委任状22枚で総会は規約にもとづき成立しました。山本会長の挨拶に続き、越坂事務局長より昨年度の活動状況が報告されました。昨年度は「石川守る会」としての初めての昼食会を開いたり、秋の本部補助事業として開催した「感覚的体験プログラム」に在宅入所の双方より多くの方々に参加いただいたこと、また名古屋で開かれた東海北陸ブロック学習会に本県より7名の参加があったことなどが報告されました。

4年目を迎えたレスパイト事業「ハートポッポ」はボランティアさんにも恵まれ、活動も定着してきていることが報告されました。

引き続き平成15年度の事業計画について提案されました。

今年度の「全国守る会」の全国大会が岐阜とわりと近いので石川からも10名ほどの参加が予定されているとのことでした。

また、昨年好評だった「感覚的体験プログラム」を今年も開催できることになったということです。係の方で検討して11月9日(日)に昨年と同じく医王養護学校をお借りして実施することになりました。

「ふれあいの家」建設については昨年度決めていただいたように基金づくりのための銀行口座を開設しました。

今年度は役員改選の年で新しい役員の提案がだされ、承認されました。長い間理事を務めていただいた新保さんがお子さまのために重度の障害の人たちのための作業所を開所され、そちらの方はまだ無認可で忙しく理事を降りられました。

長い間ご苦労さまでした。ありがとうございました。

すべての提案が可決承認され今年度の取り組みが決定しました。



全国大会に13名参加!

6月28日～29日に岐阜市で開催された全国大会に石川県より13名(守る会10名, 国療3名)の参加がありました。大会には全国から1200名の会員が集まり, “一人ひとりが小さな発見を”を合い言葉に4つの分科会や「みんなで語ろう」で熱心な話し合いがされました。

新しい障害者基本計画はその基本的な考えの中で『共生社会においては, 障害者は社会の対等な構成員として人権を尊重され, 自己決定と自己選択の下に社会のあらゆる活動に参加, 参画するとともに, 社会の一員としてその責任を分担する』と述べています。私たちは重症児(者)の権利を主張すると同時に, その責任を分担する覚悟が必要です。

今大会では4月からスタートした支援費制度の利用状況や, 生起している問題を整理していく必要性が提起されました。

また, 来年4月から現在の国療は独立行政法人国立病院機構として再出発します。サービスの質がどうなるか関心を持っていくことが必要だと言われています。

さらに, 養護学校へ通う子ども達の医療的ケアの充実については今年度から, 文部科学省の事業がはじまりました。私たちの長年にわたる要望に答えていただきましたが, これについても残された課題について議論を深める必要があります。

石川から参加された方も分科会の話聞かれ, 色々な感想を持たれました。

第40回 重症心身障害児(者)を守る全国大会

入所者の親の立場として初めて全国大会に参加した他の県の方々の意見発表を聞いて, 自分たちはとても恵まれていることに気付かされ, 感謝の気持ちで一杯になった。

親なき後の子どものこと

やこれからも続くであろう重症児の親子(あって欲しくはないが...)のためにももっともっと前向きに物事を考え, 柔軟に対処する力を身につけていきたいと思った。また, 会員の拡大についても(できれば入所者の100%入会をめざしたい)自分たちのできるところで努めていかなければならないと思った。



分科会のテーマは次の通りでした。詳細は両親の集い5・6月号をご覧ください。

- 第1分科会
- 第2分科会
- 第3分科会
- 第4分科会

独立行政法人国立病院機構と重症児医療の今後
利用者から見た支援費制度の課題
社会福祉法の理念は現場で活かされているか
養護学校における医療的ケアの課題



* 会員の方の支援費制度の利用状況の報告です。今回は羽咋に住んでおられる雲雀さん（息子さんは25才）の利用の仕方を報告させていただきます。

支援費制度の利用について

雲雀ふさえ

現在、訓練や施設の交流の場へ連れていってもらったり、自宅での生活援助など月8回利用しています。本人にもすごくよい結果が出ているし、私自身も気持ち楽になり、若い人たちに会って楽しく過ごしています。

※ ヘルパーさんとボランティアさんが2人1組で来る。

月曜日（2時間） 冷蔵庫の中の買い置き食品や足りない物は買い足して昼食を作り子どもに食べさせてもらう。散歩やドライブに連れていってもらう。

木曜日（2時間） 近くの病院へ連れていってもらい、歩行器で歩行訓練をしてくる。

木曜日（4時間） 国療七尾病院への送迎も含めて、入所している友達と一緒に遊ぶなどふれあいの時間を持っている。このサービスは将来、入所するであろうことを見据えて今の内から病院の職員や友達と慣れさせておきたいという母の希望を取り入れて実現したものである。

これらのサービスを受けるようになって、息子はヘルパーさんの来るのを楽しみに待つようになり、表情もとてもよくなった。

車に乗るときは自分の意志で足をあげて乗ろうとしたり、降りるときは嫌がって甘えるような様子も見られるようになった。

私も若いヘルパーさんに話し相手になってもらえて張り合いができました。

子どもに合わせて不規則だった生活も規則正しくなってきた、母子ともにストレスがなくなったことをうれしく思っています。

ヘルパーさん達とのふれあいの中で食事の食べさせ方や車の安全な乗り降りの仕方など、学ぶことも多く勉強になっています。

感覚的体験プログラムへのお誘い

—— 親子でなかよく、リフレッシュ・リラックス パートⅡ ——

日・時	11月9日（日）	10:00~12:00	親子でレクリエーション 昼食・休憩 おしゃべりとコンサート 「小さいことは美しい」
		12:00~13:30	
		13:30~15:00	

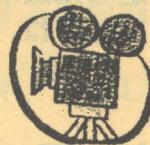
場 所 石川県立医王養護学校

講 師 玉 鉦 晴 美さん (石川県レクリエーション協会)
川 崎 正 美さん (フォークグループ・でえげっさあ)



*今年は親子で楽しく遊んだり、歌ったり、素敵な歌を聞いたりしたいと思っています。多数のご参加をお待ちしています。
詳細は次号でお知らせします。

上映会のお知らせ



朋の時間～母たちの季節～

重度・重複障害というハンディをもつ人たちの地域生活を広げてきた通所施設「朋」が
母たちと歩んできた17年

長編ドキュメンタリー/ 監督 西山正啓

日時 : 2003年9月23日(火) 祝日 午前の部: 10:30~

午後の部: 14:00~

場所 : 駅西健康ホール「すこやか」・・・駅西保健所3階

金沢市西念町3丁目4番25号 TEL 076-234-5141

上映会会費 大人—1,000円 小、中学生・障害のある人—500円

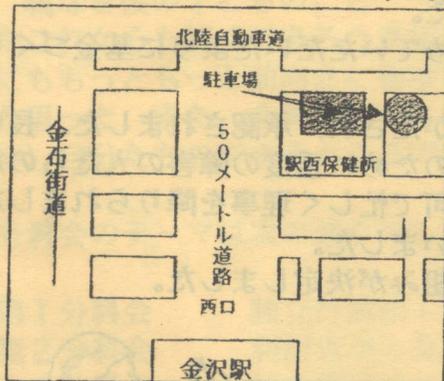
(前売りのみですので、必ずチケットをお求め下さい)

主催 : 「朋の時間」金沢上映実行委員会

後援 : 石川県重症心身障害児(者)を守る会、石川県肢体不自由児協会、
石川県手をつなぐ育成会、金沢手をつなぐ親の会

問い合わせ先 : TEL (FAX) 076-222-2691 (松田)

e-mail tomojoei@hotmail.com



ふれあい交流会 (保育)

映画の終了までお子さまをお預かりします。

ご希望の方はお早めにご連絡ください。

問い合わせ先: TEL(FAX)076-221-0560(西田)

* チケットは山本会長のところにもあります。

「朋」は横浜で昭和54年に障害の重い人たちの作業所として設立されました
それ以来重度の障害がある人たちの願いから「訪問の家」として地域での生活を
支えてきています。日本ではもっとも先進的な重症の人たちの通所施設です。
ぜひ多くの方に見てほしいとおもっています。